



発行所 愛媛県今治市大三島町宮浦
日本総鎮守 〒794-1393

大山祇神社社務所

電 話 (0897)82-0032

F A X (0897)82-0019

<https://oomishimagu.jp/>

大 三 島 海 事 博 物 館
大 三 島 大 社 講



保存修理が終わった熏韋威胴丸（ふすべかわおどしどうまる）



祈年祭

二月十七日、祈年祭を斎行。この日、宮中を始め全国の神社において、今年の五穀豊穡を祈る祈年祭が行われた。大山祇神社では、年六度の大祭が行われるが、その内の一つがこの祈年祭であり、重要な祭典である。

五穀豊穡は国家の安泰につながる。凶作になれば、飢餓の人々が多く生まれ、食糧を求め、紛争が発生しかねない。飛鳥時代（六七五）には、当時の天皇が国を挙げて祈年祭の斎行を命じた記録も見える。しかしながら、農耕文化が根付いた弥生時代頃から、形は違えど、春の豊穡の祈り、秋の収穫への感謝の風習はあったであろう。日本人として、改めて食の大切さを考える良い機会となった。



FC今治必勝祈願

二月二十三日、毎年恒例となったプロサッカーチーム「FC今治」の選手・監督・コーチ等関係者四十八名が参拝に訪れた。全員がそれぞれ絵馬に力強い字で「J3優勝」「J2昇格」と願いを書き入れ、その後拝殿にて必勝祈願祭を行った。FC今治の皆様のご活躍と最高の結果をご祈念申し上げます。



ホームページのご案内

当社ホームページでは、毎月の祭典や御祈禱時間等に関する情報などを発信しています。今後も随時更新してまいりますので、ご確認いただけると幸いです。左のQRコードからもアクセスできますので、是非ご覧ください。



<https://oomishimagu.jp/>

大山祇神社

検索

【この講社の趣旨】

大三島大社講は大山祇神社の崇敬者を結集し、敬神崇祖の信念に基づき、至誠以て道義を高揚し神恩に奉謝し普く神人和力文明造化の真理を顕現し、大山祇神社の維持を図り次の事業を行う。

【この講社の主な事業】

- ・大山祇神社の神徳昂揚
- ・大山祇神社国宝重要文化財その他宝物保存修理
- ・大山祇神社祭礼神事の保存
- ・図書、雑誌の編輯発行
- ・講演会の開催
- ・講社員募集並びに伝道
- ・その他本講社目的達成のために必要な事業

【入講後の主な待遇】

- ・家内安全家業繁栄祈願祭斎行の上、大麻を奉送する。
- ・講社大祭並びに毎月一日祭に講社員名簿

大三島大社講へ入講案内へ

を奉奠して家内安全家業繁栄の祈願祭を斎行する。

- ・国宝館、紫陽殿拝観優待券贈呈。
- ・大三島海事博物館拝観優待券贈呈。
- ・社報「大三島宮」を贈呈。
- ・大三島暦を贈呈。
- ・大山祇神社例大祭・講社大祭他の御案内

【入講の手続き】

- ・名誉講社員 毎年 五十口以上
- ・特別講社員 毎年 五十口以上
- ・正 講社員 毎年 一口以上

但し、一口 金三千円也

入講に関しましては、当社までお問い合わせください。

〒七九四一―一三九三
愛媛県今治市大三島町宮浦三三二七
大 三 島 大 社 講
TEL〇八九七―八二―〇〇三二

宝物さんぽ

▼第一回▲

紺絲威鎧・兜・大袖付

このコーナーを担当する事になりました事務員の渡邊です。拙い文ですが、どうかお付き合いください。

初回は、国宝「紺絲威鎧・兜・大袖付」についてのお話を致します。

まず、この鎧を奉納したのは、河野通信という平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武将です。河野氏は、通字として名に「通」の字を付けますが、それは大山積神の本地仏である「大通智勝仏」の一字によります。河野氏は小千（越智）の国造・小千命を祖先とする越智一族であり、大山積神を氏神として篤く尊崇していました。



紺絲威鎧・兜・大袖付（河野通信奉納）

平安時代末期、源平に分かれて各地で合戦が行われ、瀬戸内海でも海戦が起きていま

た。当時、強大な水軍を組織していた平家に対して源氏は苦戦を強いられており、源氏は平家に属していない水軍に着目します。その一つが通信率いる「河野水軍」でした。

『平家物語』では、「伊予の国の住人、河野四郎通信も百五十艘の大船に乗り連れて漕ぎ来り、これも同じように源氏の方へ付きければ、平家いとは興ざめてぞ思はれける」と語られています。

通信は、屋島の戦いの後、志度の戦いから壇ノ浦の戦いまで源氏方に加わり活躍しました。この



通信の兜と比べて、星が随分小さい

鎧は壇ノ浦の戦いの戦勝の御礼として奉納されたと伝わっています。

後に鎌倉幕府初代執権、北条時政に気に入られ、時政の娘を妻に迎えたそうです。通信の子孫には、元寇の戦いに活躍した河野通有や

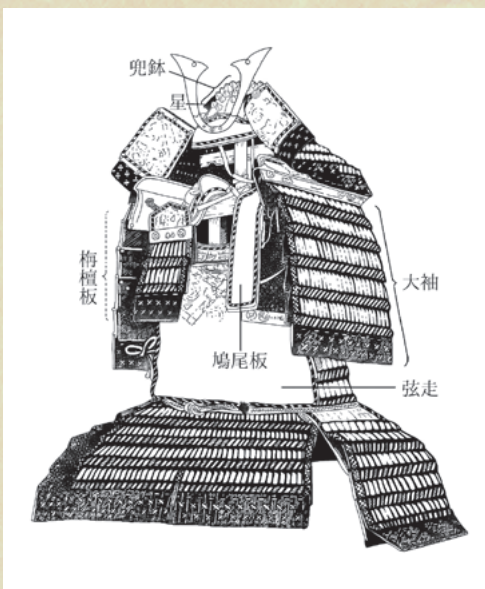
「通念仏」で知られる一遍上人などがいます。

さて、その通信の鎧である「紺絲威鎧」とは、紺色の糸で鉄と革の小札を一枚交ぜに威しており、鎧の中では、「大鎧」に分類されます。

当時の戦いは馬に乗って矢を射る「騎駆け」の騎馬戦が主流で、海戦においても弓は重要な武器でした。そのため当時の鎧は、弓矢による攻撃の防御を重視した造りになっており、兜・大袖・鳩尾板・梅檀板等が付属しています。そして、この時代の兜まで残っていることは稀なのです。

通信の兜は「星兜」と呼ばれ、頭部のトゲトゲが特徴の非常に強そうな兜です。このトゲトゲは兜の鉢板を短く合わせる為の鉾の頭です。実用性とデザイン性を兼ねたのでしょう。星兜は平安中期から見られ、平安末期にも流行していました。時代が下るにつれ星は小さくなり、数は多くなっていきます。通信の兜は大きめの星で、星兜の中でも「厳星兜」と呼ばれています。

また、鎧の弦走には、「牡丹襷入獅子円文」という柄の染め革を用いています。この柄は、仏教由来の言葉である「獅子身中の虫」という言葉を引き起こしています。これは、強さの象徴である獅子にも弱点があり、身体に潜む虫によって命を脅かされることから、裏切り者を表した言葉です。そして、この虫は牡丹の花から滴る夜露にあたりと死ぬと言われていることから、牡丹と獅子のデザインは武士に好まれ武具にもよく見受けら



れます。身体的にも精神的にも守りを固めていたのですね。

通信の父、通信は治承四年（一一八〇）、伊予を支配下に置きました。しかし翌年、平家方が伊予に攻め寄せ、また味方から裏切り者が出てしまい、通信は戦死してしまいます。通信は、父の被った裏切りの恐ろしさを身に染みて痛感していたはず。そのことが関係しているのかもしれない。

このように、どの部分も通信の拘りが見受けられます。堅牢な鎧が通信の功績の一助となったのでしょうか。通信がどのような想いでこの鎧を纏ったのか皆様も想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

注釈

- *1 通字（とおじ）
先祖代々、名前に用いられる字のこと。
- *2 本地仏（ほんじぶつ）
八百万の神々は、実は様々な仏が人々を救済する為に化身として日本の地に現れた権現である、という神仏習合思想の一つ本地垂迹説に基づくもの。
- *3 小千命（おちのみこと）
大山積神の子孫で、神武天皇初代天皇（御東征のあり、先駆けとして伊予二名島（四国）に渡り、瀬戸内海の治安を司っていた。その時、大三島に大山積神を祀ったと伝わる。

- *4 小札（こざね）
平たい小さな短冊状の札で甲冑の部品。糸や革を通せるように穴が開いている。
- *5 威し（おどし）
鎧や兜の小札を、革や糸などの緒で上下に結び合わせることを「緒通し」から来ている。
- *6 鳩尾板（きゅうびのいた）
鎧の正面左にある。弓を射る時に開く脇と胸部を防御する。急所に近いので板は一枚の鉄札にする例が多い。
- *7 梅檀板（めんだんいた）
鎧の正面右にある。弓を引いたり、刀剣を振るう際に屈伸可能。通常三段からなる革製もしくは鉄製の小札で構成されている。
- *8 弦走（つるばしり）
大鎧の胸部分前方から左脇にかけて張られた革。弓の弦があたるのを防御する。
- *9 獅子身中の虫（ししんちゅうのむし）
内部にいて恩恵を受けているながらも、内から災いをおこすものこと。



前号にて、初めてアンケートを実施いたしました。ご回答くださった皆様、誠にありがとうございます。ご返信いただきました。『職員の手記』に關しましては、『年越しの裏側の緊張感を知る』ことができる『よかった』、『大山祇神社を身近に感じることができた』などの感想をいただき、我々としても大変うれしく思います。その他、様々なご意見をいただき、一つずつ形にできればと思っております。その一つ目として、今回から、当社所有の宝物について、わかりやすく紹介する新連載を始めました。不定期連載の予定ですが、ぜひご感想等お寄せくださると、今後の執筆の励みになりますので、お時間が

編集後記

ありましたらお願いいたします。そして、ぜひ、当社宝物館にお越しいただき、現物を見て歴史を感じていただければ嬉しく思います。

また、コロナウイルスの五類引き下げが決定し、従来の経済活動に戻る兆しも見えております。当社でもここ数年にわたって、祭典を縮小して行っていました。が、今年からはすべて通常通り斎行する予定でございます。

例大祭当日の六月十日は、境内が一段と厳かな雰囲気包まれ、日頃の安寧を感謝するに相応しい日となることでしょう。また、六月二十二日の御田植祭では、伝統芸能である「一人角力」や、懸命に田植えに勤しむ早乙女たちを四年振りに目にすることができましょう。

大祭の佳き日、

普段とは一味違う景色を見せる当社に、是非お越しください。



アンケートはこちらから



出仕
柚木 郁彦

新任挨拶

ような伝統のあるお社で歴史の一端を担えることは非常に光栄であるとともに畏れ多いことでございます。専攻課程を修了したばかりのため、神職としてだけでなく、社会人としても未熟な身ではありますが、一日も早く一人前の神職となり、大山祇神社のために貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

辞令

令和五年四月一日

主典 工藤 淑高

主典 榊山 豪士

大山祇神社権禰宜に任ずる

神社 本庁

授与品初穂料 改定について

昨今の物価の上昇に伴い、当社では左記のお守り、御札の金額を四月一日より改定致しましたので、お知らせいたします。

縁結守 一、〇〇〇円

兜キーホルダー守（金・銀）一、〇〇〇円

神額守（金・銀）一、〇〇〇円

交通ステッカー（青・赤）一、〇〇〇円

割符 一、〇〇〇円

特別木札 二、〇〇〇円



内子（巫女）募集

大山祇神社では、常勤の内子（巫女）を随時募集しております。募集要件は次の通りです。

◎十八歳から二十二歳までの未婚の女性

※年齢はあくまで目安です。一度お電話くだされば、この限りではございません。

- ・勤務時間…午前八時～午後五時
- ・年末年始等繁忙期を除き、残業なし
- ・神社隣接住宅（家賃無料）あり

詳しい待遇・勤務形態等は、当社までお問い合わせください。

大山 祇 神 社

TEL〇八九七―八二一〇〇三二



例大祭の御案内

大山祇神社例大祭を来る六月十日（土曜日）（旧暦四月二十二日）に斎行致します。

例大祭とは、当社の最も重要な祭典であり、当社の御祭神大山積大神様が現社地に遷座された養老三（七一九）、旧暦四月二十二日を祝し、現在まで続く、歴史ある大祭でございます。

現時点では、今年の例大祭は四年振りとなる通常斎行の予定でございますが、参拝に際しましては、混雑している場所ではマスクを着用するなど、ご自身で適宜判断していただければと存じます。

また、今後の情勢によつては祭典を縮小せざるを得ない場合もございます。その際は、当社ホームページ等にてご案内申し上げますので、是非ご覧ください。

尚、当日御参拝頂けない皆様には替わり貴家又貴社の御尊名を御神前に奉奠し、家内安全・事業繁栄の特別神楽祈禱を執り行っております。

ご希望の方は【大山祇神社大祭神楽祈禱申込簿】をお渡しいたします。名簿に御家族、又会社・事業所の名前を記入のうえ大

三島・大山祇神社社務所までお送りください。大祭に併せて祈願祭を厳修の上、神楽祈禱神符をお送り申し上げます。

六月 九日金 午前十時
御更衣 御戸開祭

六月 十日土 午前十時
例大祭 併講 社大祭

六月 十一日日 午前十時
後 宮 祭

尚、今年より例大祭斎行時刻を午前十時に改めましたので、ご注意ください。



神楽神符・大祭守

大三島宮祭事暦

令和五年六月～令和五年九月

六月	一日	一	祭
自	三日	宇迦神社祈晴祭	
至	九日	神楽殿清掃祭	
	八日	御更衣御戸開祭	
	九日	例大祭併講	
	十日	後宮祭	
	十一日	宇迦神社祈晴報賽祭	
	十二日	御田植祭	
	二十七日	全国鉾山工場安全祈願大祭	
	三十日	大祓式	
七月	一日	一	祭
	二十日	五穀豊穰祈願祭	
	二十二日	月次	祭
八月	一日	一	祭
	二十二日	月次	祭
九月	一日	一	祭
	十四日	阿奈波神社宵祭	
	十五日	阿奈波神社例祭	
	二十二日	月次	祭
	二十三日	皇霊殿遙拝式	
	二十三日	秋季祖霊社祭	